

---

# 第2期 あわら市都市計画マスタープラン

## 概要版

---

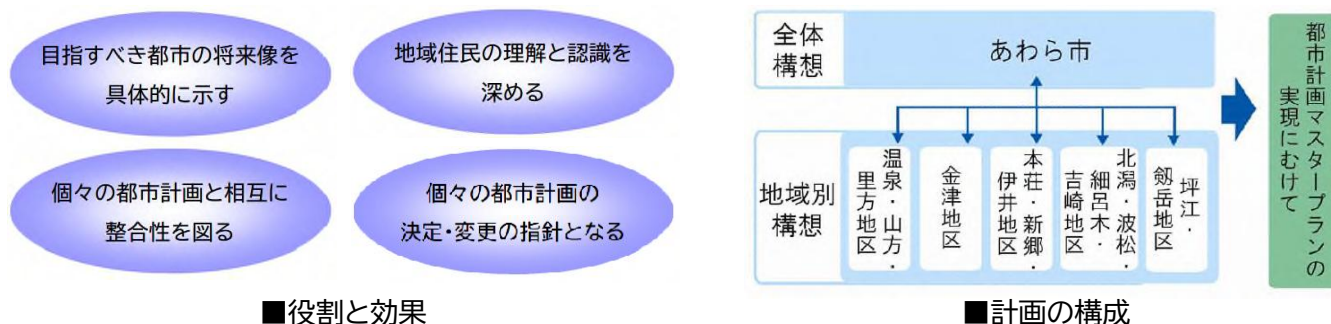


福井県あわら市

## 1. 都市計画マスタープランとは

市町村の都市計画に関する基本的な方針であり、今回の見直しは、2025 年(令和7年)に当初計画の最終年度を迎えることから、あわら市総合振興計画等の上位計画を反映させるとともに、北陸新幹線県内開業などの社会情勢の変化を踏まえた、新たな計画期間を持つ計画とした策定するものです。

新たな計画期間は 2035 年度(令和 17 年度)を中間年次、2045 年度(令和 27 年度)を目標年次とします。



## 2. あわら市の都市の将来像と目標

### (1) 都市の将来像

第3次あわら市総合振興計画における基本理念「明日への挑戦 未来をきりひらくまち ～ずっと住み続けたいあわらを目指して～」を踏襲し、その実現に向けた具体的なイメージを以下のとおり設定します。

暮らしやすく多彩な地域資源を活かした  
“豊かな未来を創るまち” あわら

#### 【暮らしやすく】

既存の生活サービス機能を維持するとともに、身近な地域での居住環境の改善、公共交通の維持・利便性の確保、魅力的な企業立地の促進などにより、若者が定住できる、高齢者にとっても暮らしやすい、安全に安心して住み続けることができるまちを目指します。

#### 【多様な地域資源】

市内には、多様な自然や歴史的資源、文化的資源など、今後のまちづくりに活かすべき個性的で魅力的な地域資源に恵まれており、芦原温泉駅周辺では広域的な交通結節点、にぎわい空間としての環境整備が行われています。

今後のまちづくりにおいては、これら一つ一つの資源を磨きあげて、それぞれの地域の魅力を高めていきます。

#### 【豊かな未来を創るまち】

多様な主体が協働・連携し、積極的かつ主体的に活動することにより、自らの力で豊かな未来を創っていきます。

また、自然や芸術、創作活動などをテーマとする滞在型、回遊型の観光まちづくりにも取り組み、本市に継続的に関わりを持つ関係人口の拡大、新たな活力の創出につなげていきます。

### (2) 都市づくりの目標

#### 目標1 暮らしやすい持続可能なまちづくり

現在のコンパクトな構造を維持することを基本に、無秩序な開発の抑制、計画的な土地利用や都市機能の誘導により、さらに生活利便性を高める方向を目指します。

#### 目標2 活力と魅力を生み出す多様な拠点づくり

市街地でのさらなる魅力向上を図るとともに、周辺地域の固有の環境を活かした多様な拠点づくり、企業誘致の促進などによる産業拠点の強化を進めます。

また、拠点間をつなぐネットワークづくりを進め、連携による相乗効果を創出していきます。

#### 目標3 豊かな環境、美しい風景を受け継ぐまちづくり

豊かな環境や美しい風景の魅力や価値を更に高め、次世代に継承していくために、市民主体のまちづくりにより、豊かな時間を過ごせる空間として活用していきます。

#### 目標4 誰もが安全で安心して住み続けられるまちづくり

ハード・ソフトによる総合的な防災・減災対策を進め、多世代の人が住み慣れた地域で安全に安心して住み続けられるまちづくりを進めます。

また、クリーンエネルギーが中心の社会へと転換し、それに合わせて都市の構造や交通システムなどを変革するGX(グリーントランスフォーメーション)を推進します。

#### 目標5 身近な地域への愛着と誇りを育むまちづくり

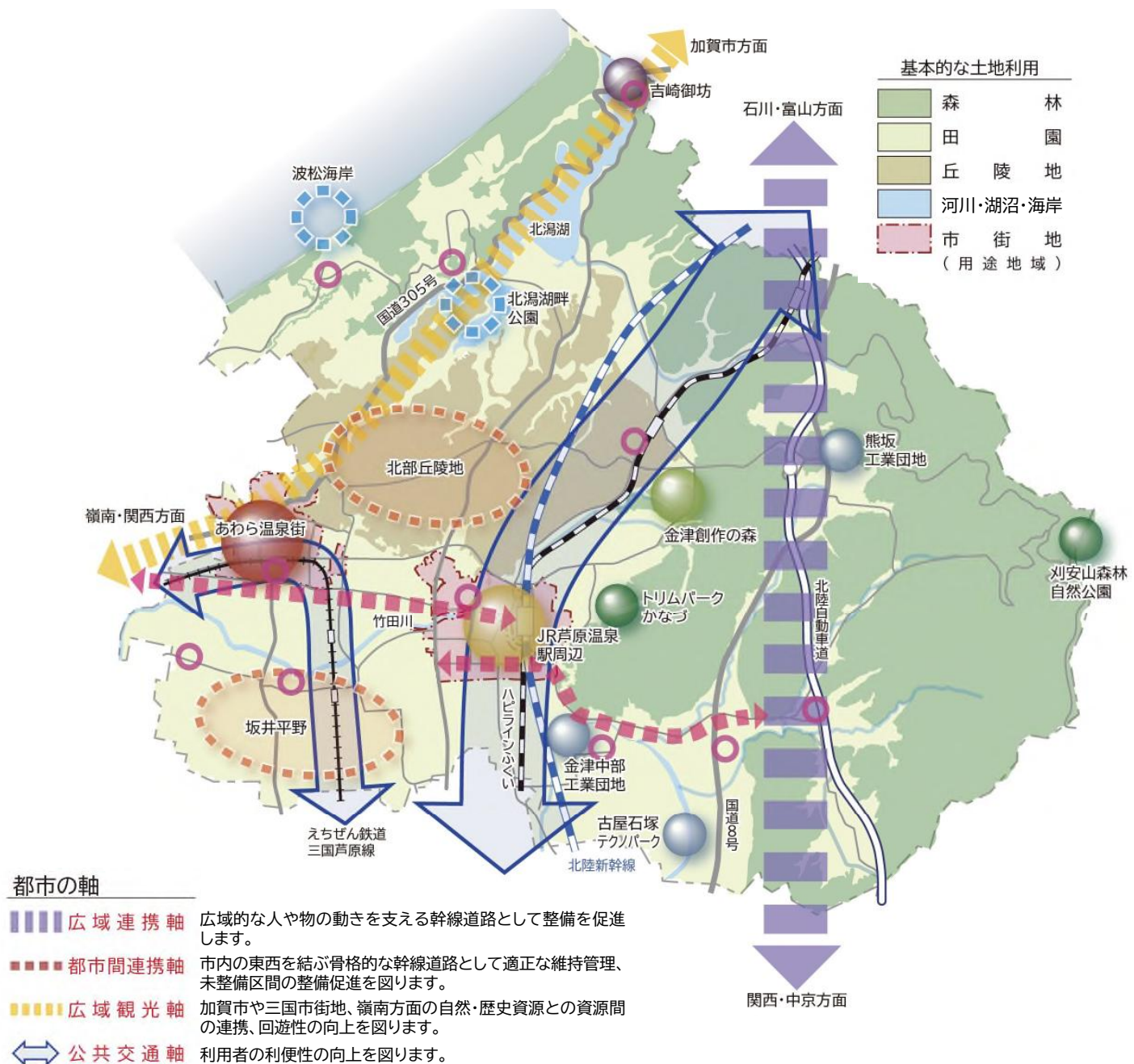
市民のまちづくりに関する意識を高めるとともに、身近な地域での新たなコミュニティの形成を図り、暮らしやすさを高めるための主体的な取り組みを育んでいきます。



### 3. 将来の都市構造

地形条件や自然条件を基本として、市全域を市街地地域、田園・集落地域、丘陵地地域、森林地域および河川・湖沼・海岸に分類し、それぞれの固有の特徴や資源を活かしたまちづくりを進めます。

多彩な自然資源や歴史資源を市全体の魅力資源として位置づけ、計画的かつ重点的な拠点づくりを進めるとともに、これらを相乗的、効果的に結ぶ骨格軸を形成し、まち全体の魅力と活力の向上を目指します。



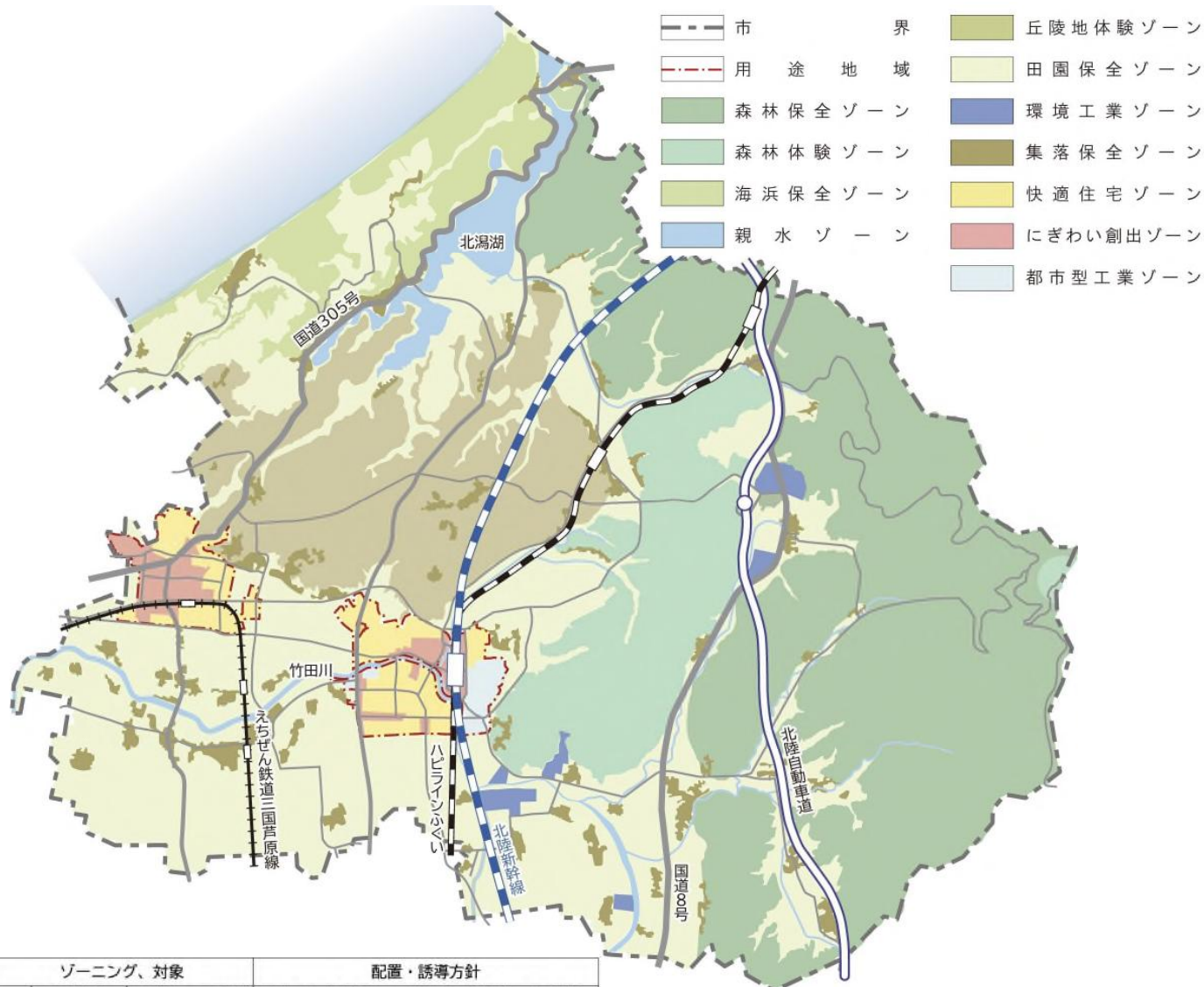
#### 都市の拠点

- 緑の交流拠点** 自然の恩恵を生かした、自然体験学習や憩い、スポーツの拠点として、機能の維持と活用促進を図ります。
- 親水拠点** 身近に水辺を感じ、生活に潤いややすさをもたらす拠点として、良好な自然環境の保全を図るとともに、親水空間としての活用を図ります。
- 歴史文化交流拠点** 歴史を伝え、次世代に受け継ぐ学びと交流の拠点として、歴史的な環境・景観を保全します。道の駅は、機能の維持・向上を図ります。
- 農文化拠点** 農業風景を背景に、農業を通じて出会い、体験し、交流する拠点として、観光まちづくりへの活用を図ります。
- 温泉文化拠点** 日常と温泉文化、芸術文化が融け合う、緑連なる回遊拠点として、にぎわい空間としての整備、魅力向上を図ります。
- 広域交流拠点** 福井県の北の玄関口、広域的・日常的な都市機能が集積する拠点として、既存の機能の充実と魅力向上を図ります。
- 芸術文化交流拠点** 豊かな森林環境の中で芸術文化に触れ、創作を通じて交流する拠点として、周辺の自然環境を保全しながら、機能の維持・向上を図ります。
- 産業拠点** 環境と共生する職住近接型の雇用の場、都市の活力を生み出す拠点として位置づけ、工業団地としての機能の維持・向上を図ります。
- 地区拠点** 生活の拠点を形成する区域を位置づけ、市街地やその他の拠点との移動手段の確保により、現在の暮らしやすさを維持します。

## 4. まちづくりの個別方針

### (1) 土地利用の方針

- ・住み続けられる持続可能でコンパクトなまちづくりを推進します
- ・土地利用の適正な規制・誘導を推進します
- ・新たな活力や賑わいの創出に資する土地利用を推進します
- ・豊かな自然環境の保全とまちづくりへの活用を図ります
- ・身近な生活拠点を中心とした暮らしやすさを維持します



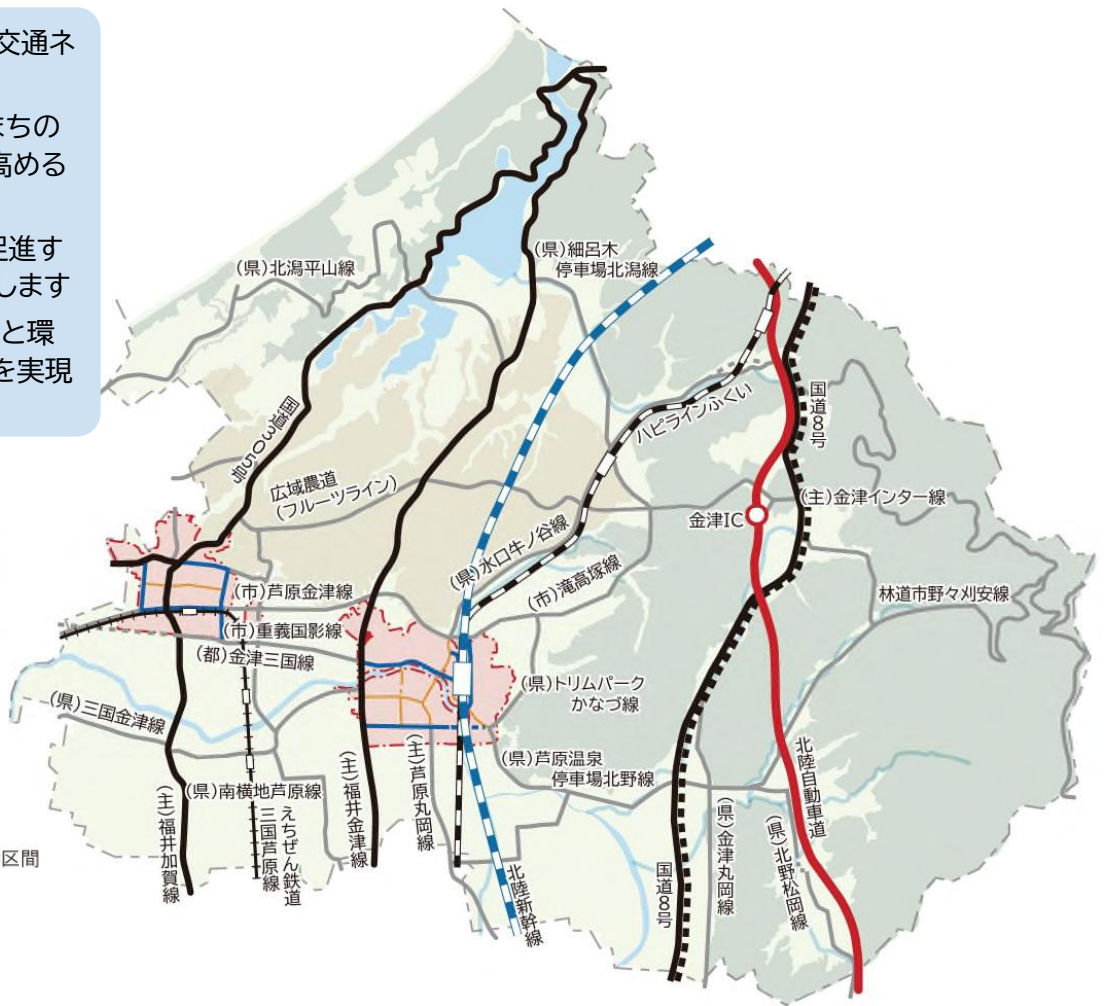
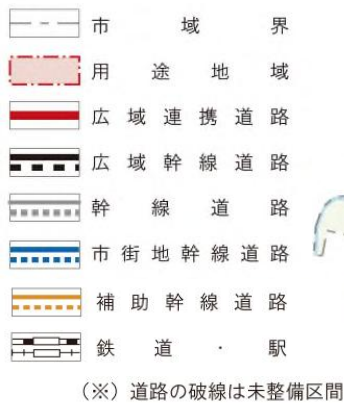
ゾーニング、対象		配置・誘導方針
森林地域	森林保全ゾーン	刈安山、風谷峠、鶏ヶ岳
	森林体験ゾーン	中央山地
	海浜保全ゾーン	松林、斜面緑地
河川・湖沼・海岸	親水ゾーン	波松海岸
		北潟湖
		河川
丘陵地地域	丘陵地体験ゾーン	北部丘陵地

ゾーニング、対象		配置・誘導方針
田園・集落地域	田園保全ゾーン	坂井平野
	環境工業ゾーン	工業団地
	集落保全ゾーン	農村集落
市街地地域	快適住宅ゾーン	住宅地
	にぎわい創出ゾーン	商業地
	都市型工業ゾーン	工業地



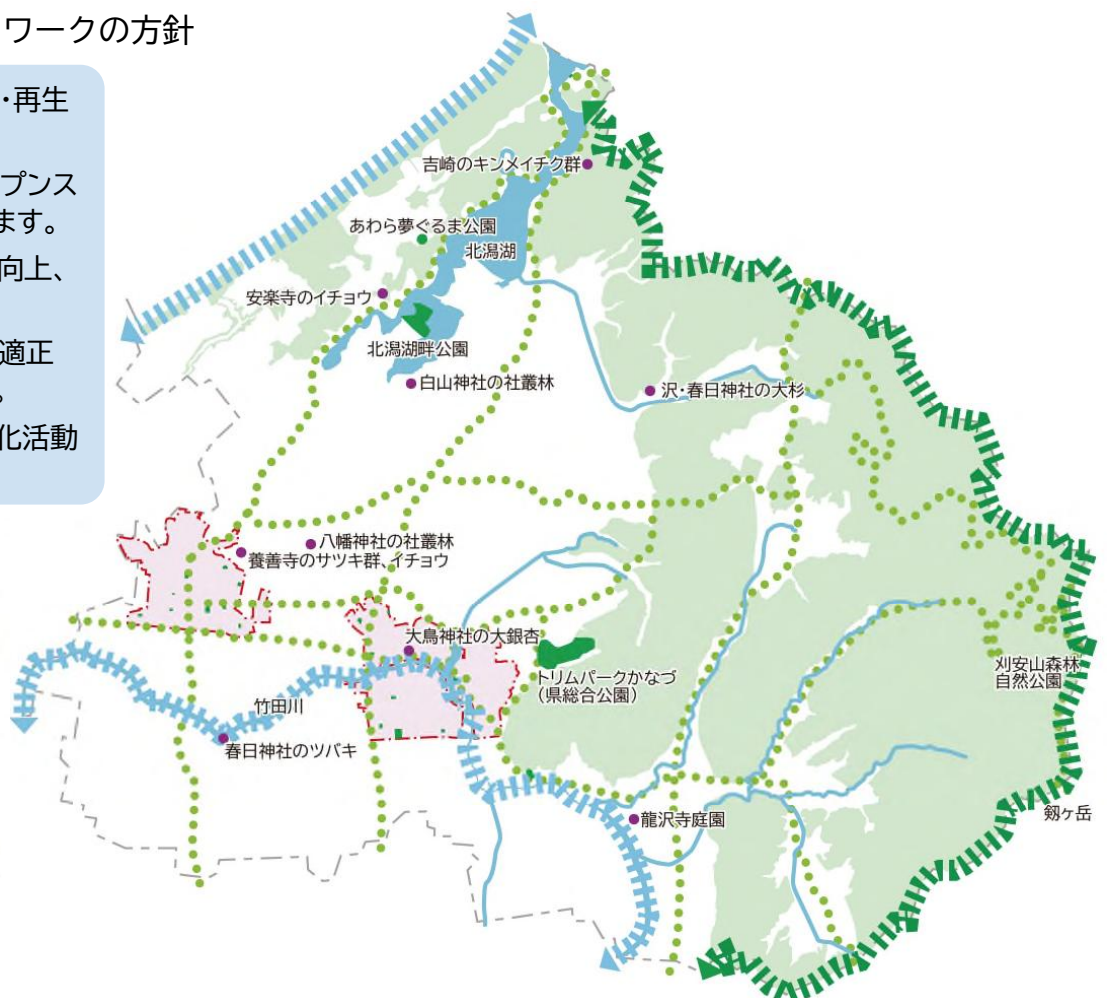
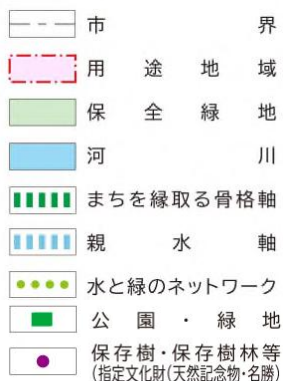
## (2) 交通ネットワークの方針

- ・市街地と各拠点を結ぶ交通ネットワークを構築します
- ・地域の課題を解消し、まちの魅力や暮らしやすさを高める道路整備を推進します
- ・広域的な交流・連携を促進する道路網の整備を促進します
- ・誰もが利用しやすく、人と環境にやさしい交通環境を実現します



## (3) 水と緑のネットワークの方針

- ・貴重な自然環境の保全・再生と活用を図ります。
- ・公園・緑地の確保、オープンスペースの緑化を推進します。
- ・拠点となる公園の魅力向上、利用促進を進めます。
- ・公園施設の長寿命化と適正な維持管理を図ります。
- ・市民が主体となった緑化活動を推進します。



## (4) 景観づくりの方針

- ・多様な自然風景を守り、育み、生かす景観づくりを進めます
- ・歴史的な景観を守り、伝え、新たな文化を育む景観づくりを進めます
- ・まちの個性を創造する景観づくりを進めます
- ・住む人々と生活する風景で美しく愛着のあるまちをつくります



凡例	景観エリア	凡例	景観軸	凡例	景観軸・景観拠点	凡例	景観拠点
森林景観	山岳風景軸	鉄道風景軸	森や里山の景観拠点	歴史街道軸	水と緑の景観拠点	歴史文化の景観拠点	
海浜景観	海辺風景軸	交通結節景観拠点	観光交流拠点	歴史伝承景観拠点	文化創造景観拠点	農村集落	
湖沼景観	川の風景軸	観光交流拠点	歴史伝承景観拠点	文化創造景観拠点	農村集落		
河川景観	シンボル景観軸	歴史伝承景観拠点	文化創造景観拠点	農村集落			
丘陵地景観	農業風景軸	文化創造景観拠点	農村集落				
田園景観	湖岸風景軸	農村集落					
市街地景観	広域景観軸	農村集落					

## (5) 公共公益施設の方針

- ・定期的な点検・診断に基づく適切な維持管理・修繕・更新等を実施します
- ・耐震化などによる安全確保対策を実施します
- ・施設の長寿命化、ユニバーサルデザイン化、統廃合・複合化を推進します
- ・脱炭素化を推進します
- ・統合的かつ計画的な管理を実現するための体制を構築します

## (6) 上下水道の方針

- ・水道施設の維持管理と運営に努めます
- ・水道施設の計画的な更新を行います
- ・水道事業会計の健全化に努めます
- ・公共下水道の計画的な更新を図ります
- ・下水道事業の経営の効率化を図ります
- ・合併浄化槽の設置を推進します
- ・雨水幹線の整備を推進します

## (7) 防災まちづくりの方針

- ・災害から人命を守る防災対策を推進します
- ・減災の考え方に基づく防災対策を推進します
- ・自助、共助、公助の連携による防災対策を推進します
- ・大規模広域災害を想定した防災対策を推進します
- ・男女共同参画及び要配慮者の視点に配慮した防災体制を確立します
- ・防災DX化への取組を推進します

## (8) 環境にやさしいまちづくりの方針

- ・脱炭素化の行動を展開します
- ・地域循環共生社会をつくります
- ・地域資源を保全・活用します
- ・パートナーシップによる推進体制をつくります



## 5. 立地適正化計画

### (1) 立地適正化計画とは

わが国の多くの地方都市では、今後、急速な人口減少が見込まれており、拡散した市街地のままで人口が減少すれば、医療・福祉・子育て・商業等の生活サービスの提供が将来的に困難になりかねない状況にあります。

立地適正化計画とは、こうした課題に対して、行政と住民や民間事業者が連携して、生活サービス機能や居住の誘導と公共交通ネットワークの形成に取り組む「コンパクト・プラス・ネットワーク」によるまちづくりを推進するための計画です。

近年の自然災害の頻発・激甚化を踏まえ、2020年（令和2年）の法改正により、立地適正化計画に防災指針を定めることとなりました。

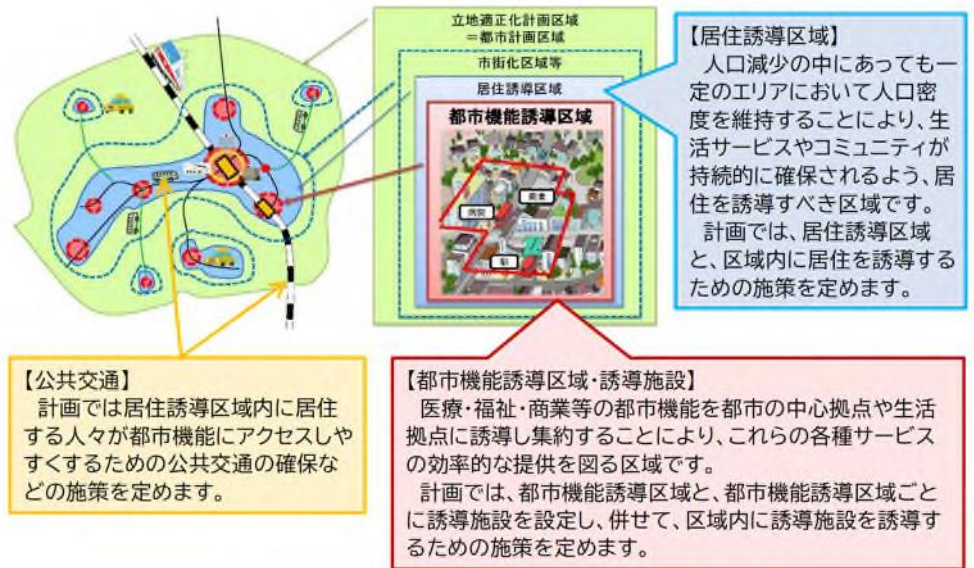


図 立地適正化計画のイメージ

（出典：立地適正化計画作成の手引き（国土交通省）を基に作成）

### (2) 誘導区域の設定

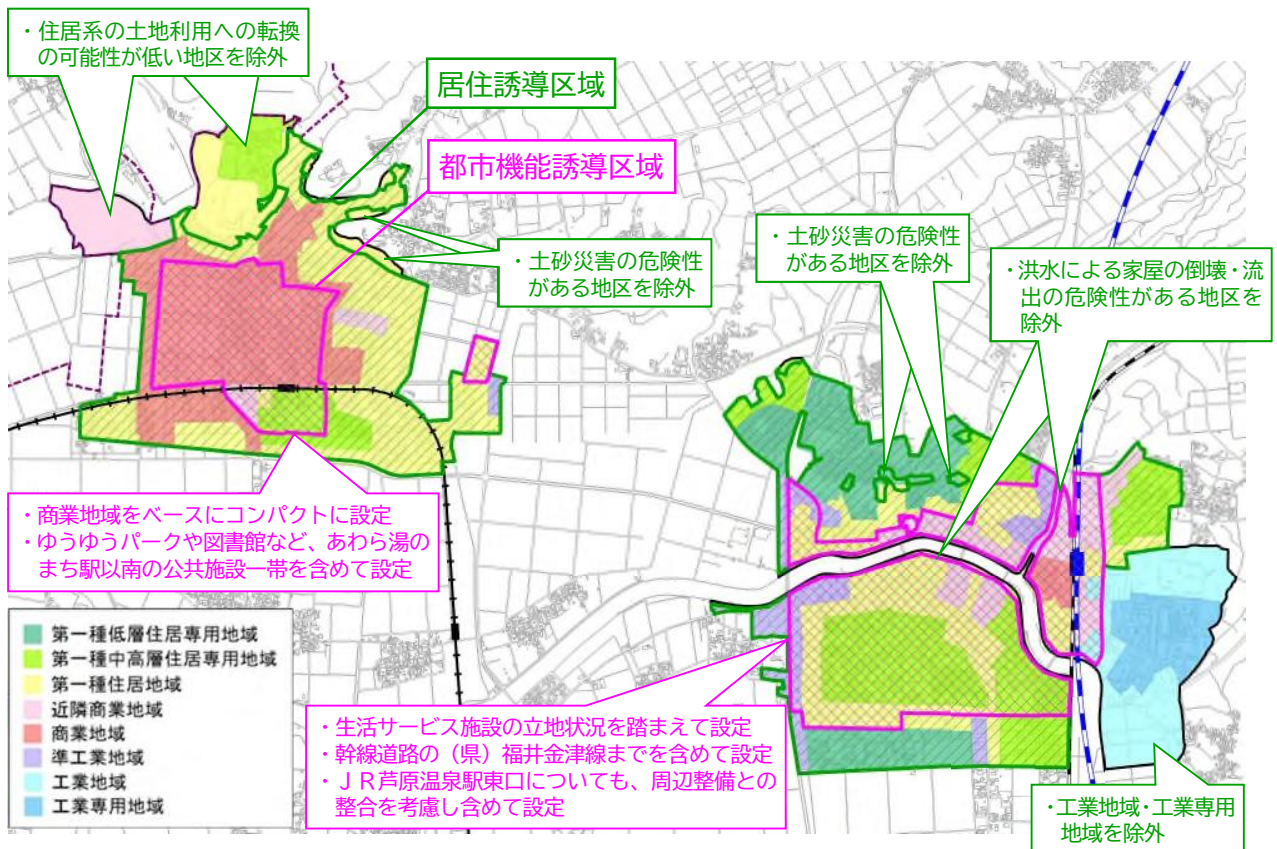


図 誘導区域の設定

### (3) 防災まちづくりの取り組み方針

都市計画区域における防災まちづくりの将来像を「誰もが安全で安心して暮らせる 災害に強いまち」と設定し、土地利用の見直しなどによる災害リスクの「回避」と、施設整備や地域防災力の向上などの「低減」の考え方を組み合わせ、防災力を高めていきます。



## 6. 地域別構想

地域別構想は、地域で暮らす人の土地利用などに視点を置き、地域ごとの特性や課題に応じて、目指すべき地域の将来像やその実現に向けた方針を示すものであり、地域住民と行政が協働し、地域づくりを進めるにあたっての指針となるものです。

地域区分は、市街地の形成状況や土地利用現況、合併の経緯や小学校区、集落区などの社会的条件をもとに設定しています。

具体的な境界については、道路や鉄道、河川や山などの地形条件などを考慮して設定しています。

地域区分	主な含まれるエリア、地区拠点
温泉・山方・里方地域	あわら温泉街周辺市街地と近接する丘陵地・田園・集落 芦原小学校周辺
金津地域	JR芦原温泉駅周辺市街地と近接する丘陵地・田園・集落 金津小学校周辺
本荘・新郷・伊井地域	市域南部の田園・集落 本荘小学校周辺、伊井小学校周辺、新郷小学校周辺
北湯・波松・細呂木・吉崎地域	市域北部の沿岸地域や丘陵地 北湯小学校周辺、細呂木小学校周辺、波松小学校周辺、吉崎小学校周辺
坪江・劔岳地域	市域東部の森林地域 金津東小学校周辺、劔岳公民館周辺

※休校中



図 地域別構想の地区区分

### 温泉・山方・里方地区

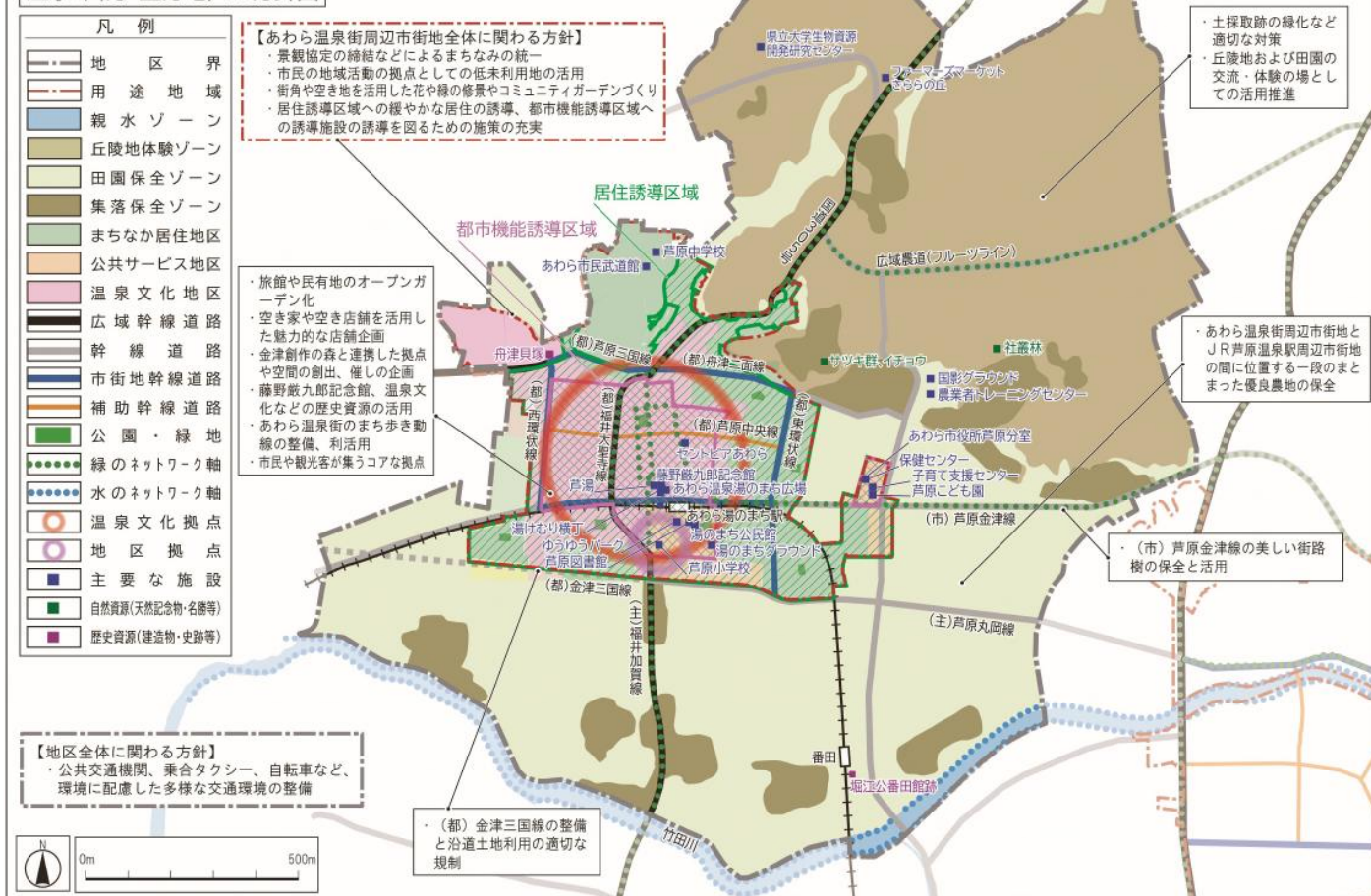
#### 【地域づくりの目標】

豊かな温泉情緒と農風景が息づく さらなる賑わいと回遊を創出するまち

#### 【地域づくりの方針】

1. 丘陵地の景観と農の恵みを生かした、憩いと体験の場をつくる
2. 魅力にあふれ、歩いて楽しい温泉街をつくる
3. あわら温泉湯のまち広場を市民も観光客も集うコアな拠点として充実させる
4. まちなかにコミュニティや活動を育む場をつくる
5. 誘うまち、見送るまち もてなしの心があふれる道をつくる

#### 温泉・山方・里方地区の方針図





## 金津地区

### 【地域づくりの目標】

多様な機能が集まり 新たな出会い・交流が広がるまち

### 【地域づくりの方針】

1. 新幹線駅の開業—もてなしの心が漂うまちをつくる
2. 歴史を掘り起こし、緑と水のきらめく美しいまちをつくる
3. 子どもから高齢者まで 歩いて快適なまちをつくる
4. 竹田川を保全し、生活の中で息づく存在にする
5. コミュニティや交流を育む場をつくる
6. 市街地と周辺の魅力施設を美しい景観で結ぶ

### 金津地区の方針図

#### 凡 例

	地 区 界
	用 途 地 域
	親 水 ソ ー ン
	丘陵地体験ゾーン
	田園保全ゾーン
	集落保全ゾーン
	まちなか居住地区
	公共サービス地区
	多機能サービス地区
	生活サービス地区
	沿道サービス地区
	都市型工業地区
	広域幹線道路
	幹線道路
	市街地幹線道路
	補助幹線道路
	公園・緑地
	緑のネットワーク軸
	水のネットワーク軸
	歴史の軸
	緑の交流拠点
	広域交流拠点
	地区拠点
	主要な施設
	自然資源(天然記念物・名勝等)
	歴史資源(建造物・史跡等)

#### 【地区全体に関わる方針】

- ・市内外の資源を結ぶ道路ネットワークの利便性確保
- ・子ども、高齢者、障がい者、外国人などあらゆる人々が使いやすいユニバーサルデザイン化の推進
- ・既存公共施設や低未利用地を活用した市民活動や高齢者の集いの拠点づくり
- ・市内外拠点を結ぶ交通網と景観の形成
- ・景観計画に基づいた景観づくり

#### 【JR芦原温泉駅周辺市街地全体に関わる方針】

- ・道路、建物、街路樹、街灯、案内板、沿道景観など統一感のある美しいまちなみ景観形成
- ・空き地・空き家などの低未利用地の再編や集約化、区画整理による居住環境の向上、オープンスペースの創出
- ・居住誘導区域への緩やかな誘導、都市機能誘導区域への誘導施設の誘導を図るための施策の充実
- ・市街地における公園・緑地の配置
- ・本陣飾りの展示、市民の地域活動などによる低未利用地の活用
- ・公共施設、商業施設、銀行・郵便局サービス、行政サービスなどの日常サービス機能の導入や市街地への集積
- ・竹田川の氾濫を想定した防災意識の啓発と醸成
- ・洪水による河岸浸食エリアへの居住の緩やかな規制
- ・文化イベントの開催など、にぎわい・交流の充実

- ・千束一里塚、坂ノ下宿場口跡、雨夜塚、金津城満江館跡など旧北陸街道沿いの資源を活かした歩行者空間の整備や沿道景観の創出

- ・(都)金津三国線のシンボル道路としての整備と沿道修景による魅力づけ

- ・北陸新幹線芦原温泉駅周辺の都市機能および交通結節点機能の強化
- ・商業・日常サービス機能の導入
- ・アフレアを拠点としたにぎわい・交流機能の充実
- ・竹田川の親水空間の整備
- ・竹田川と竹田川河川公園の適正な維持管理
- ・金津創作の森の陶芸やガラスを活かした駅前の魅力店舗づくり

- ・環境にも配慮した職住近接型の工業地の誘導

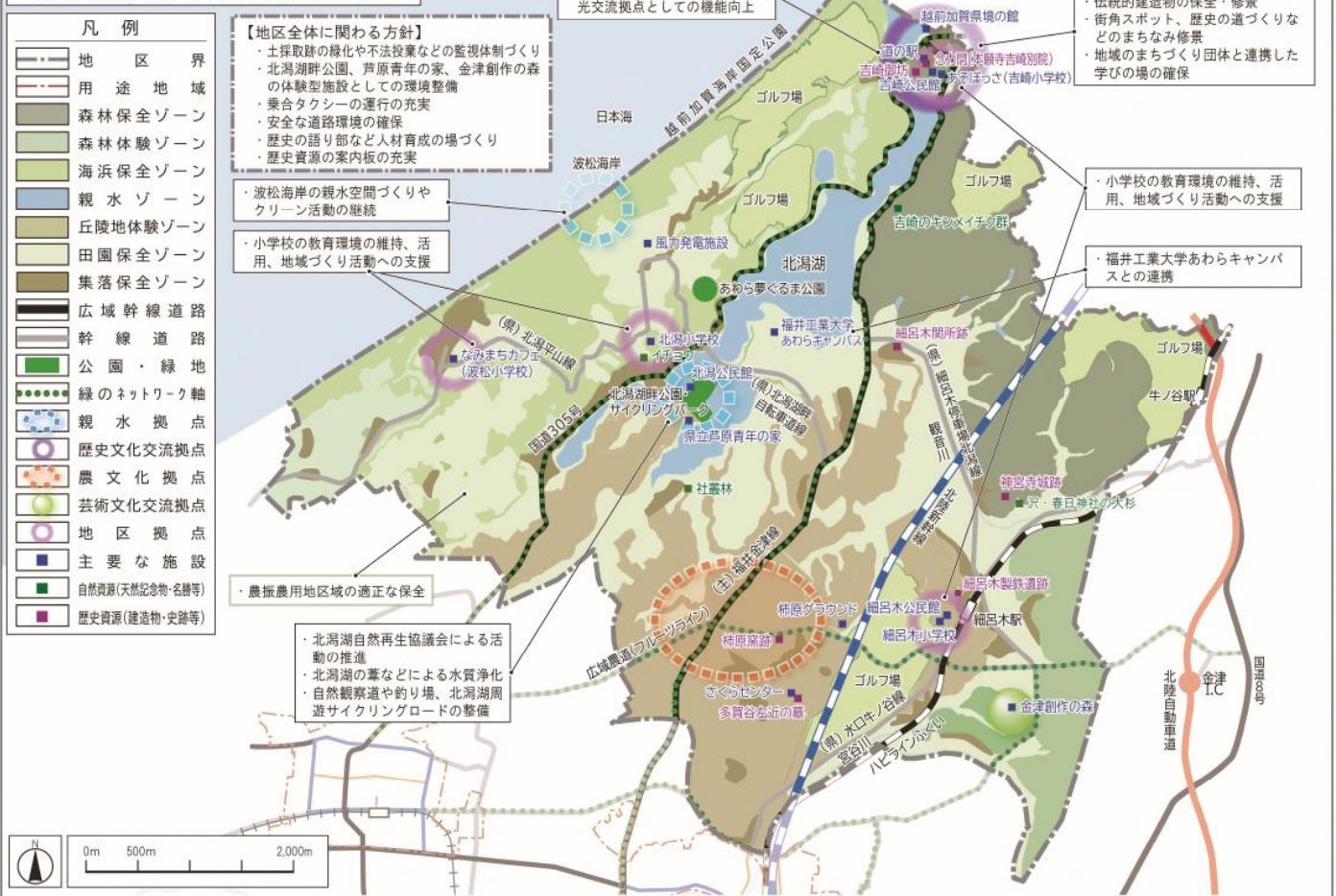


0m 500m



雄大な自然と悠久の歴史がつながり 新たな感動と魅力が生まれるまち

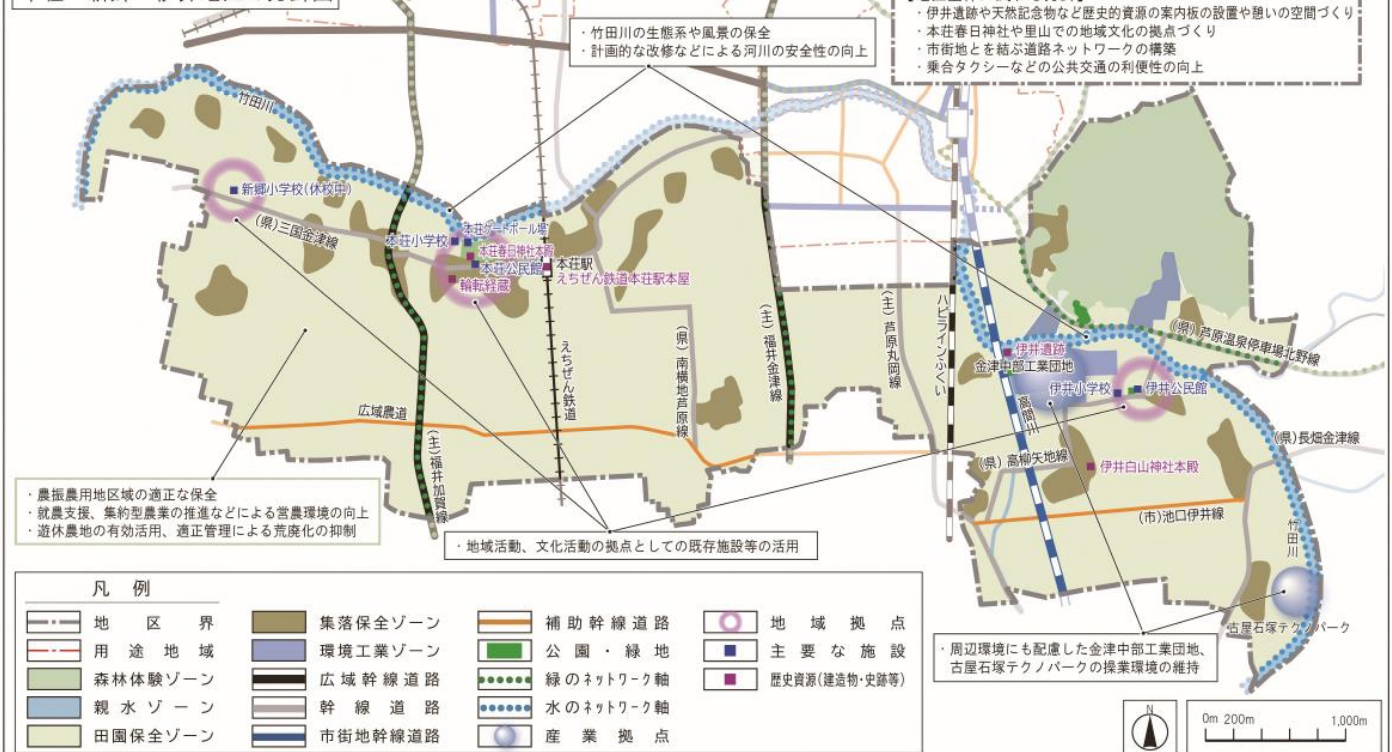
北潟・波松・細呂木・吉崎地区の方針図



## ■ 本莊・新郷・伊井地区

豊かな田園環境を未来に受け継ぐ ゆとりとうるおいのあるまち

本荘・新郷・伊井地区の方針図





### 【地域づくりの方針】

1. 海、湖、山、田園、丘陵地の自然と風景を守る
2. 海と湖の自然素材を満喫できる出会いと体験の場をつくる
3. 歴史文化を発見し、次世代へ受け継ぐ
4. 広域的な生活圏を踏まえた定住環境づくり
5. この地の宝を地域コミュニティで育み、磨く

### 【地域づくりの方針】

1. 夕日と地平線の美しい田園地帯と風景を守る
2. 竹田川を守り、安全性を向上させる
3. みんなで地域の宝を守り、創り、育む
4. 小学校や公民館を中心とした地域の拠点をつくる
5. 地域と市街地を結ぶ交通ネットワークの充実

## ■坪江・劔岳地区

### 【地域づくりの目標】

人と豊かな自然が共生する  
環境にやさしく暮らしやすいまち

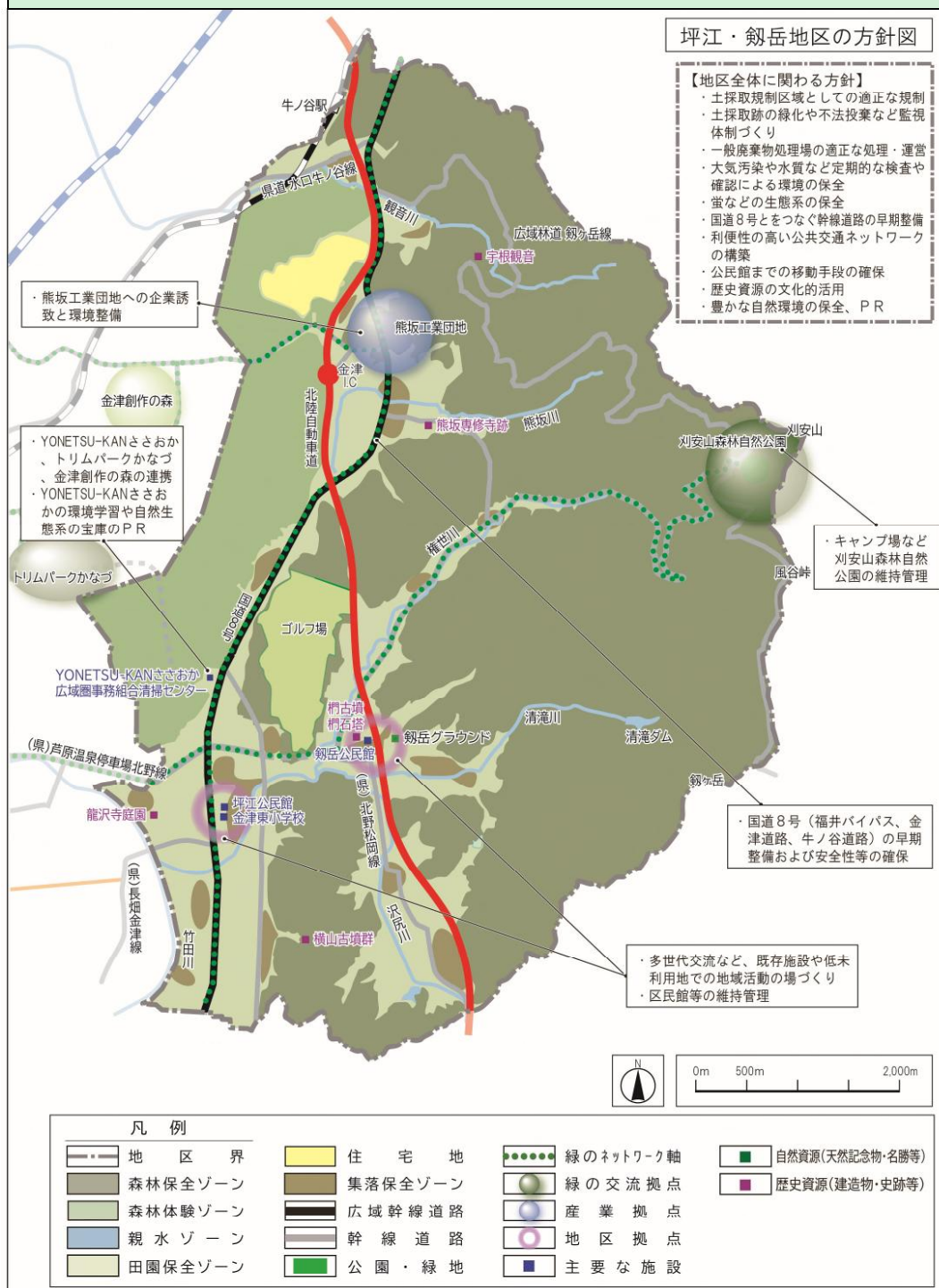
### 【地域づくりの方針】

1. 豊かな森林環境を守り、魅力的な森林体験レクリエーションの場をつくる
2. 螢の息づく清流を守る
3. 環境とスポーツと芸術の体験型の拠点を磨き、結ぶ
4. 福井県の玄関口として、立地を生かした活力を生み出す
5. みんなが安心して利用できる道にする
6. この地の宝を地域コミュニティで育み、磨く

### 坪江・劔岳地区の方針図

#### 【地区全体に関わる方針】

- ・土採取規制区域としての適正な規制
- ・土採取跡の緑化や不法投棄など監視体制づくり
- ・一般廃棄物処理場の適正な処理・運営
- ・大気汚染や水質など定期的な検査や確認による環境の保全
- ・螢などの生態系の保全
- ・国道8号とをつなぐ幹線道路の早期整備
- ・利便性の高い公共交通ネットワークの構築
- ・公民館までの移動手段の確保
- ・歴史資源の文化的活用
- ・豊かな自然環境の保全、PR



## 7. 都市計画マスタープランの実現に向けて

本計画は、市民と行政の協働によって策定し、将来像、目標、主要方策を共有するまちづくり、地域づくりの将来のビジョンであり、ビジョンで終わらせることなく、着実に実現していくために、市民と行政の役割分担を明確にしながら、新たな時代に向けた質の高い協働の仕組みを築いていきます。

### ① 地域のまちづくり組織の育成

当初計画の策定時には、市民が主体となって地域独自のまちづくりの方針や主要方策、実現に向けた市民と行政の役割分担を定めており、その後、いくつかの地域において、公園や道路の維持管理、文化の伝承等の活動が行われています。

今後も、地域で活動する市民団体やNPOなど、地域のまちづくりを企画、実施する組織の育成を図り、市民主体の地域づくりを積極的に推進します。

### ② まちづくり活動への支援制度の充実・周知

市民主体のまちづくりを推進するため、まちづくり・地域づくり活動への助成支援やモデル事業の実施、専門家の派遣、活動拠点の設置など、市民が活動しやすい支援制度の充実を図るとともに、広報誌やホームページ、SNS など多様な手段を用いた周知を図ります。

### ③ 市民のまちづくりへの参画機会の充実

都市計画マスタープランの策定のほか、都市計画マスタープランにもとづくまちづくり事業や施策の立案・計画策定・評価検証等の各過程において、市民アンケートや説明会、ワークショップ、パブリックコメント等を実施し、市民意見の反映を図ります。

特に、次代のまちづくりの担い手となる若者世代の意見を聴く場を積極的に設けることで、まちに対する関心や愛着が高まり、定住にもつながることが期待されます。

### ④ 行政の推進体制の充実

まちづくりの目標や分野別の方針を関係部署と共有するとともに、必要に応じてプロジェクトチームを立ち上げるなど、横断的に取り組むための体制を整え、総合的・弾力的にまちづくりを推進します。

また、市民組織、事業者との連携体制を整え、効果的に魅力あるまちづくりに取り組みます。

### ⑤ 持続的なエリアマネジメント体制の推進

中心市街地においては、エリアマネージャーの積極的な活用や一般市民、商業者、専門家など多様な人材によるエリアマネジメント体制の構築を図り、計画やガイドラインの策定を通じて、地域の特性を活かした魅力的なまちづくりに取り組みます。